

2022年 11月12日(土)

2023年 1月15日(日)

[コレクションギャラリー] 解説付展示目録

鉄の技と美Ⅲ

姫路藩主 酒井家の刀剣

姫路城管理事務所が管理していた「酒井家の刀剣」は、江戸時代の幕末までは姫路城内に保管されていたものと考えられる。それぞれの刀剣は、共鑑などの白鞘に収められていて、刃文を焼刃した藩主の戒名(院号)が白鞘に墨書されている。もとは、拵(柄・鐔・鑑・塗鞘)が付属し、武器蔵の刀箆筒に収納保管されていたと推定される。江戸時代後期に酒井家にあった御宝器のうち、刀剣類を記した『姫路酒井家宝器明細簿・乾』(明治35・1902年写)に記載される155口の一部と考えられる。なお本書では、歴代の焼刃だけで43口を数える。

姫路藩主酒井雅楽頭家は、鎌倉時代の後鳥羽上皇による鍛刀・貴人が刀を打つという系譜を受け継ぎ、当主自らが鍛刀に携わっていた。姫路城内の大手門東の内堀に沿って鍛冶小屋(現在の護国神社本殿付近)があり、これらの刀剣もここで作刀されたと推定される。相手鍛冶は、前橋時代からの「服部秋弘」や「市橋秋久」「伊勢城正次」などが知られている。

現在は13口が伝来し、1口をのぞいてほとんどが酒井家歴代の焼刃による作刀と指料である。今回は、当館が所蔵する10口と姫路神社の1口を紹介する。

脇指 銘以
一口 酒井忠以
江戸時代中期



姫路市立美術館
Himeji City Museum of Art